

令和5年10月20日

職員各位

八代市長 中村 博生

令和6年度予算の編成について

熊本県へ進出する TSMC においては、来年末の生産開始に向けて新工場の建設が進む中、第二工場の建設も検討されており、その経済効果は拡大が見込まれている。また、国際クルーズ船の寄港再開によるインバウンドの拡大をはじめとして、地域経済においても回復の兆しが見られつつある。このような情勢の変化を本市発展への好機と捉え、各種施策の展開にあたっては、これらの効果を最大限に得るための方策を検討する必要がある。

また、本市としては、令和2年7月豪雨からの坂本町の創造的復興の着実な推進はもとより、第2次八代市総合計画に掲げる「しあわせあふれる ひと・もの交流拠点都市 やつしろ」の実現に向けた実効性の高い取組の推進、さらには、八代の未来を切り拓くための施策として、新八代駅周辺の開発や新たな工業団地の整備など、県南の雄都として相応しいまちづくりに積極的に取り組んでいかなければならない。

限られた財源の中で、これらを実現していくためには、前例や組織の垣根にとらわれることなく、既存の事業手法を抜本的に見直し、無駄を排除するとともに、各部署における事業の優先順位を明確にした上で、選択と集中を徹底する必要がある。

職員各位におかれては、長期的な視点にたち、より効率的かつ効果的な施策・事務事業のあり方を追求し、全職員が一丸となって知恵を出し合い、真に市民生活の向上に資する予算編成に取り組まれない。